



世界へのプレゼントになろう

2015-16年度 国際ロータリー会長 K.R.ラビンドラン

## 名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル  
 ■会長 / 鈴木 清詞 ■幹事 / 坂本 晃 ■会報・雑誌・広報委員長 / 江松 央統  
 ■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル2202号  
 TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

## 第1166回

2016年2月2日(火) 晴 第26回

～平和と紛争予防 / 紛争解決月間(2/23ロータリー創立記念日・世界理解と平和の日)～

斉唱 君が代、我等の生業  
 出席 会員56名(出席率算入人数51名)  
 出席42名 出席率82.35%  
 前々回補填率89.58%(1月19日分)

### 2月の誕生日

13日 児島 徳和さん 14日 堀 敦さん  
 15日 伊藤 圭一さん 22日 本多 利郎さん  
 23日 白藤 憲雄さん

### 配偶者誕生日

2日 木村 絹代さん 3日 伊藤 孝子さん  
 6日 大橋 潔さん 8日 川辺百合子さん  
 10日 安藤 眞弓さん 21日 森田 俣子さん

## 会長あいさつ

会長 鈴木 清詞さん

年が明けてから、株安、円高、原油安、中国の景気が落ちているといったような事で、余り良い話が無い中、少し良い話をしたいと思います。

最近、経済新聞あるいは、週刊誌を見ていると、今年はIOTの年だと書いてある事が増えています。IOTとは何かと思い、調べましたら、Internet Of Things という意味だそうです。「モノのインターネット」という意味です。インターネットというと、windows95が1995年に発売され、約20年。それから携帯電話が出て、スマートフォンが発売されてまだ5～6年程だと思いますが、今ではインターネットを使って電話をすれば、テレビ電話もゲームも無料。そして、携帯電話にはカメラ機能も付いていますし、家庭ではインターネットでの買い物も当たり前になっています。

この Internet Of Things とは色々な品物に通信機能が付くという事です。通信機能が付きますと、例えば、スマートフォンで家の電気を点けたり消したり、お米を炊いたり、お風呂を沸かしたりという事が自由に出来るという事になります。そういった時代が今すぐそこに来ているという事です。我々は製造業ですが、機械にもそういう機能が付くとどうな



るかと言うと、例えば、機械の稼働状況が集約されてメーカーへ届き、メーカーから逆に連絡がくることとなります。

今年発売されると言われているのが、プリンターのインクです。インクが減るとメーカーへ自動的に通信が行って、配送まで自動的に行われる。こんな物ができてくるそうです。こうやって考えてみますと、本当に物の進化というのはスピードが速いと思う訳ですが、何が今一番進んでいるかと言いますとロボットです。

昔、ソニーから発売されたAIBOという犬の形をしたロボットがありました。このAIBOは、それぞれの飼い主がAIBOに色々な事を覚えさせるので、非常に個性があって、販売中止になった今でもファンがいるそうです。昨年、ソフトバンクから発売されたpepperという人型のロボットですが、このpepperの妻は、一台のpepperが覚えた事が本部に全て集約され、全てのpepperにフィードバックされるそうです。大変な事だと思います。

他にも色々ありまして、今度出るiPhoneでは、写真のレンズが2つになって3Dの写真が撮れるようになるそうです。また、今年の秋に出る日産の車にはサイドミラーが無くなるという事で、こういった色々な物に、半導体や有機ELやセンサーが付いて、様々な情報が全て集約されるとか、連絡がくるという事になるそうです。それも、もう今年や来年の話ばかりで、これからの機械はそういった物が付いて当たり前になり、故障は自分で点検するのではなくて、逆にメーカーから連絡が来るという時代になるそうです。

考えてみると、スマートフォンが出て、我々もカメラを持って歩かなくなりましたし、何でもスマートフォンに話しかければ答えが貰えるという事が当たり前といった時代になっていますけれども、これからの進歩というものは、そのまた数倍の速さで進むのではないかと思います。

## 幹事報告

幹事 坂本 晃さん

1. 来週2月9日(火)5時30分から、創立25周年実行委員会が17階、桐の間で行われます。創立25周年記念例会は、2月19日(金)に行われますが、台北ミレニアムRCから29名が参加していただけるそうで、是非、色々歓迎したいと思います。
2. 海外出張届けが、属さんから出ております。行き先はフランス、目的は商用です。2月1日(月)～2月10日(水)です。

## ニコボックス

- ◆ 卓話させて頂くことになり、感謝いたします。

下村 徹嗣さん

- ◆ 下村さん卓話楽しみです。

水野 俊男さん 田中 一雄さん 大平 明子さん  
佐々木 暢さん 新原 尚さん 小嶋 招啓さん  
犬飼りさ枝さん 加藤 英敏さん 木村 猛さん  
牧野 好弘さん 宮崎 良一さん 三島多恵子さん  
白藤 憲雄さん 細井 俊男さん 木下 福郎さん  
坂本 晃さん 佐々木元彦さん 鈴井 一博さん  
東山 直史さん 坂田 信子さん 入谷 直行さん  
鈴木 清詞さん 川辺 清次さん 安藤 修さん  
伊藤 圭一さん 大橋さなえさん 中村 勝さん  
長尾 浅吉さん 三浦 和人さん 猪村 美之さん  
有川 英敏さん 江松 央統さん 三浦 隆さん

- ◆ 先週近来にない寒波が来ましたが、最高の赤富士がとれました。マイナス20℃を超えると、日の出の時紅富士から赤富士になります。絶景でした。後日皆さんにお見せします。 児島 徳和さん

本日合計 38,000円 累計 591,000円

## 同好会報告

- 混声合唱団 川辺 清次さん

大須RCの大須シンガーズが創立10周年を迎え、2月25日にザ・コンサートホールでコンサートを行います。我々混声合唱団も2部の最初に出ます。整理券が20枚来ておりますので、皆さまの中で、ご希望の方がいましたら、事務局までお願いします。

## 会場監督報告

児島 徳和さん

先日の例会時、会長あいさつの際、多数しゃべっておられる方がいらっしゃいました。皆さま、重々ご承知かと思いますが、前に出て話をされている方がいらっしゃる時は、恐れ入りますが私語を謹んでいただきたいと思います。ご協力宜しくお願い致します。

## 会員卓話

- 「平均的な日本人の宗教観とキリスト教」

委員長 下村 徹嗣さん

昨年12月に再入会をさせていただいて以来、2ヶ月経過し、まだご挨拶すらしていない方もおります中で、今日、卓話の機会を与えられました事を光栄に存じております。プログラム委員長より、キリスト教の牧師ではありますが、キリスト教だけに限らず宗教一般の事について広く話をしてくださいとの事でした。そうは言いますが、キリスト教はともかく、他の宗教の事も含めて宗教の話をする能力はありませんので、私の知り得る範囲内でお話をさせていただきます。

まず、神についてです。キリスト教では、天地万物を創り、人間をも創る、創造主なる唯一の神で、



遠い所にいるのではなく、身近な所で私たちに語りかけてくださる、人格的な関係を持つ神です。人間は神によって創られたので、神の力は絶対的なものです。神が人間を支配します。信仰者は神の国(天国)を求め、神の義(正義と救い)を求めます。一方で、平均的な日本人の場合は、アニミズムと一体となった汎神論。アニミズムとは、自然の事物や色々な物に神が宿るという考え方です。日本では八百万の神があると言われる訳です。そういう事ですので、神の力は絶対的ではなく相対的なものになります。人間が神を支配するまでは言えないまでも、人間の上に神様がある、という訳では必ずしもない訳です。神に対して、現世的な利益を求める事が多く、無病息災、家内安全、商売繁昌などで、日本の民族の古来からの考え方です。

でも、これだけでは片手落ちだと考えになると思います。というのは、6世紀に仏教が入ってきました。それで、平均的なご家庭では、神棚と仏壇の両方ともあるご家庭が多いと思います。神と仏がワンセットになっているという意味では、日本人の神仏観という事を考えなければなりません。

1月19日の中日新聞の朝刊に、愛知学院大学教授の木村文輝さんが、日本人の神仏観という事で論文を書いておられました。それを要約しますと、日本人は、神と仏の双方に祈りを捧げる。神は特別な力やエネルギーの持ち主で、それを人々に授ける存在である。一方、仏は慈悲深い存在であり、人々の欲望やエネルギーを鎮める存在である。人々は神に必要な力やエネルギーの供給を願い、仏に過剰な欲望や力の制御を求める。このように人々は、神と仏を適切に使い分ける事で、幸せな日常を送る事が出来ると感じているのではないだろうか。そうだとすれば、神と仏の双方に祈りを捧げる日本人は、宗教に不真面目ではなく、むしろ熱い信仰心の持ち主という事になるのである。と述べておられます。私も同感する所が多いです。

日本人は、よく外国人に「あなたの宗教は何ですか?」と、問われると、「無宗教です。」と答える人が多く、特に西洋の人はその答えに驚きます。ですが、その無宗教というのは、例えば仏教や新教などの特定の宗教を信じていないというだけで、無宗教だという訳です。ですから、日本人の多くは仏教と神道をミックスした宗教心なるものを持っていると言えるのではないかと、いう風に私は思っているのであります。そういうのが、日本人の神仏観という事だと思えます。

続いて、罪という事です。キリスト教の罪というのは、原罪とありますように、アダムとイブという人類の祖先が禁断の木の実を食べた事で罪というのが発生し、人間の存在自体が罪深いものだ。なぜなら、どこまでも自己中心で、神に背く傾向が強いからだという事です。一方で、平均的な日本人の場合は、罪の意識は薄い。それは何故かと言うと、神様の力は相対的ですし、人間がむしろ神を支配するような事ですから、神に対して罪を感じる事はほとんどありません。罪責、罪性にまで至らないという事になる訳です。

次の救いですが、キリスト教の場合は、神様に対して罪を負っていると言う事ですので、神様に背く事が罪になる訳ですが、そこから救われないと人間

は生きていけないとか、救われないという感覚が強いものですから、その罪からの救いという事で、救いの主イエス・キリストの十字架の贖いと復活による罪の赦しを得る。また、イエス・キリストの死後3日目に復活されたことにより、永遠の命に生きる約束を得る。これが罪からの救いという技を神がしてくださるといふ事になります。平均的な日本人の場合は、救いについて、先ほど言いました様に、罪からの救いを必要としない、どちらかという、神主さんがなさる様に、穢れや災いを祓い清める。厄除けなどをする。

そして、仏教的な考え方ですが、生老病死という四苦や八苦という苦しみからの救いを求めるという事で、罪からの救いという感覚は余り日本人にはありません。そして、一番関心があるのは、肉体の死後どうなるかです。キリスト教の場合は、神の国(天国)へ行く事ができる。そこで新しい命が与えられ、永遠に生きる約束を得ている。終末のときというのは地球が終わる時ですが、身体の蘇りがあるという事で、新しい命を与えられて生きて行く事が赦されているというのがキリスト教の考え方ですから、希望があるという事です。

一方で、平均的な日本人の場合は、一義的な明確な考えはないが、次の様な考え方があるという事で、①全ては死んだら終わり。無に帰する。というのが大きくあります。そして、2番目からはそうではなく、また新しく生きる事ができる道があるという事で、②天国に行く。仏教の場合は、西方浄土です。③輪廻転生。6つの道があると言いますが、悪い事をするとか畜生といったものに生まれ変わるとか、あるいは仏に生まれ変わるとか色々ありますが、何らかの形で生まれ変わっていくという考え方です。④祖霊信仰。日本人の神様というのは、自然に神が宿るといふものもありますし、祖先が神様になるという考え方があります。ですから、仏壇で祖先を拝む訳ですが、拝んでいる当人が、自分が死にますと、普通三代経ると、その仏壇の拝まれる側の仏様になる、という考え方があります。この、②~④では、何らかの形でまた肉体の死後、生まれ変わっていく。しかし、どちらかと言うと、①の全ては無に帰する、という感覚が強いのではないかと思います。そうしますと、次の信仰の目的ですが、平均的な日本人の場合、この世で肉体が死んだら全ては終わるといふ事からすると、現世の幸福を求めていくしかない。あるいは、苦しみからの解放といった事が信仰の目的になっていくのではないかと。

一方で、キリスト教の方も、現世の幸福や苦しみからの解放も、当然願いとして求めていく訳ですが、本来の信仰の目的は神が中心ですので、神の栄光をあらわすことです。あるいは、神を愛し、隣人を自分のように愛すること。終末の希望に生きる、要するに、生まれ変わってずっと生きていく事ができる。こういうのが信仰の目的になります。

このように、平均的な日本人の宗教観と、キリスト教の考え方では、著しく異なっています。どちらが良いとかどちらが優れているとか、そういう比較は意味がありません。ですが、そのような相違を踏まえる中で、私はキリスト教の牧師として、また、日本人として、日頃考えている事を3つほど述べていただいで、終わりたいと思います。

1つは、歳に関係なく、日頃から死の事を想いつつ生きていく事。これが今をより良く生きる為にも大切だと思ひ生きております。キリスト教の世界では、ラテン語でメメント・モリという言葉があります。これは「死を憶えよ」という意味の言葉です。死を意識しつつ、今を精一杯生きていくという事が大事だといふ事でこの言葉が使われております。特に歳を経るにつれて、死の事を意識しつつ1日1日を大切に生きていく事が必要ではないかと思ひています。

2つ目は、世界でも日本でも世俗化という現象が進んでいます。世俗化といふのを別の言葉で言いなせば、神様など存在しない、神様が例え存在したとしても必要ない、といふ事を意味します。その結果、人間の上に立つ神様を畏れる事が無くなり、人間は傲慢になり、貪欲になり、やりたい放題の世の中になってしまっている、なりつつあると思ひます。これが、世界の混乱を引き起こす大きな要因となっているのではないかと思ひています。また、畏れ敬う対象が無くなった事により、神様の戒めの声を聞くチャンスが無くなっています。戦前の日本では「お天道様に恥じるような事をしてはならない」といふような戒めを親から受けておりました。我々の親で、そんなに教養も無いような親であります。それでもそのような戒めがありました。それも今は無くなってしまいました。その結果、お金が全て、経済が全てとなってしまう。何でもあって、恥を知らない世の中となりつつあって、それが倫理や道徳の退廃をもたらす事になったと思ひています。やはり、神様とか仏様とか、どう呼ぶかはともかく、人間の上に立つ、何か畏れ敬う対象が必要ではないか。そして、その戒めを守っていく事が必要ではないかと思ひています。

3つ目ですが、日本では過去の歴史にもありましたように、キリスト教嫌い、キリスト教に反発する傾向があります。一方で、日本での結婚式はというと、ウェディングドレスを着て、教会なりチャペルで挙げるのが8割~9割位だと言われています。やはり、和魂洋才といふ日本人の考え方が、宗教の事についても生きていてのではないかと思ひます。数年前に、政治家の小沢一郎さんが、一神教は多神教と比べて良くない、嫌いだといふ趣旨の発言をした事があります。単純に言えば、一神教のキリスト教は良くない、多神教の日本の宗教が良いのだといふ事でしょう。しかし、今、イスラム国などもあって、一神教か多神教かといふ風な善悪や優劣を問うような声もありますが、そんなに簡単に単純化して良いとか悪いとか、言えないと思ひております。でも、日本では残念ながら、キリスト教嫌いやキリスト教に反発する方が多いといふ事は、私としても甘んじて受け止めなければならないと思ひております。但し、世界では今の所、欧米中心で動いておりますので、日本が国際社会をこれから生き抜いていく為には、やはり西洋社会の事をよく理解する事が必要です。その為には、このキリスト教の思想や精神、文化を知る事が必要ではないかと思ひます。これは言い過ぎですが、聖書やキリスト教の事を知る本などを、折に触れて読んでいただければと思ひております。ご静聴ありがとうございます。

## 第 1168 回例会 (2月19日) のご案内

創立 25 周年記念式典

### ■ 2 月度理事会 議事録 ■

報告者 細井 俊男さん

日時 2016 年 2 月 2 日(火) 17:30 ~  
場所 名古屋マリオットアソシアホテル  
17F『パイン』

出席者 鈴木、有川、東山、木下、坂本、  
児島、細井、白藤、鈴井、水野、  
佐々木暢、大平、山本、江松  
18名中14名参加

#### ◎協議事項

- 一、4/9 春の家族会の件  
＜親睦活動・家族委員長 大平 明子さん＞  
徳川園での開催  
次回例会にて案内を配付し、人数取りまとめのため、  
2月19日(金)までに出席のお返事をいただく。

#### ◎報告事項

- 一、プログラムの件  
3 月度・4 月度プログラムについて  
＜会場運営・プログラム委員長 山本 郁矢さん＞  
・3月22日、4月12日会員卓話 未定

- 一、4/19 2RC 合同例会の件  
＜幹事 坂本 晃さん＞  
・アトラクション 2RC の合唱披露とする。  
中華料理取り分けとし、飲み物はフリードリンクとする。

- 一、次年度副委員長の件  
＜副幹事 細井 俊男さん＞  
・次年度副委員長決定、再来年度委員長となる件も  
了承済み。

#### ◎その他

- 一、創立25周年記念式典 お土産(日本酒)について  
＜児島 徳和さん＞  
当日、袋入れと名前札を付けて、事前に席に置く。

#### ※次回のご案内

次回 3 月度理事会  
3 月 15 日(火) 17:30 ~  
名古屋マリオットアソシアホテル 17 F「パイン」